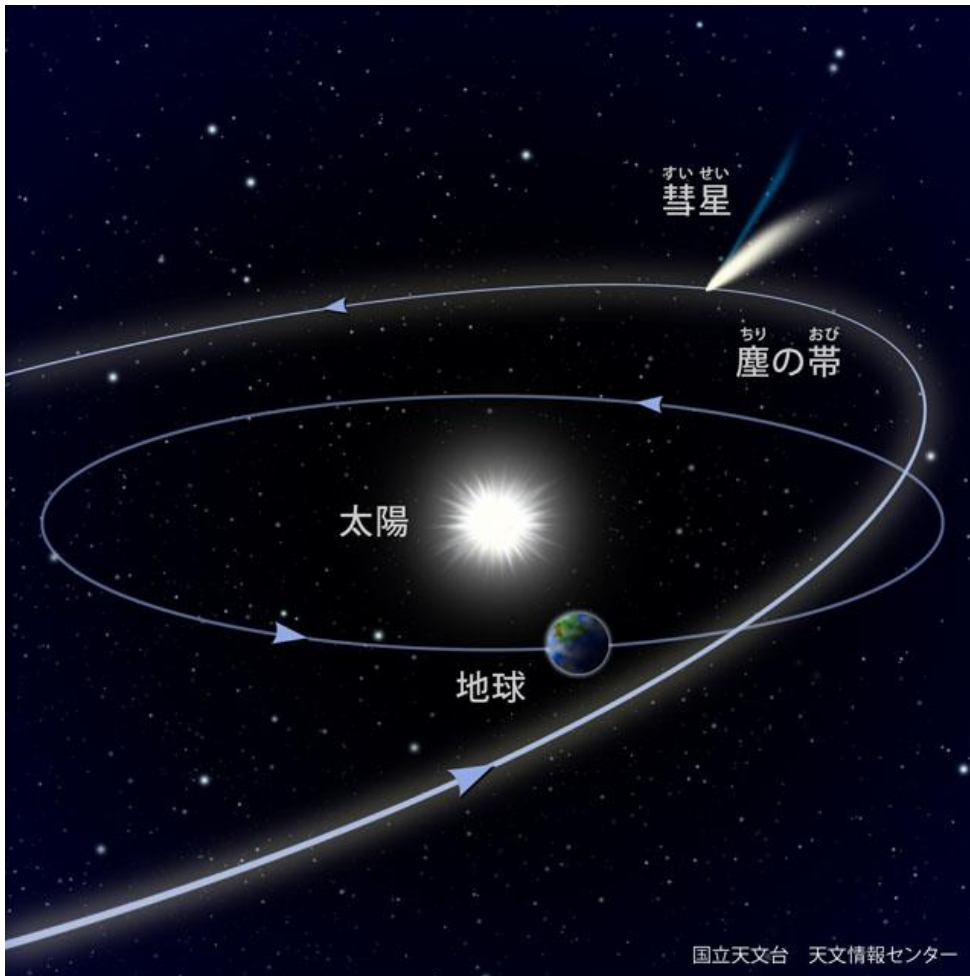


# てんたいかんさつかい ミニミニ天体観察会

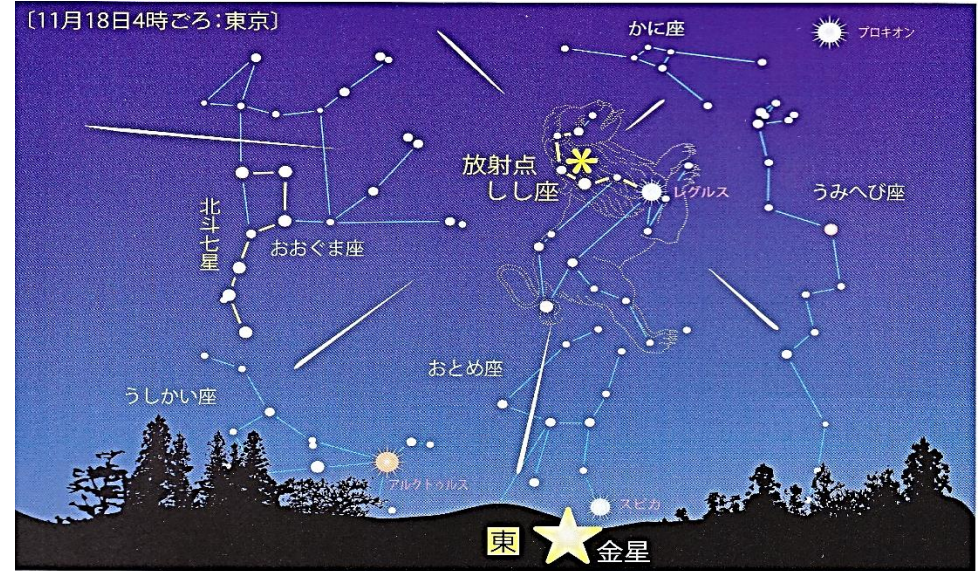
## 第4回 流星群を見よう

2018年11月17日(土)  
秦野市立東公民館

流星とは？ 流星群とは？

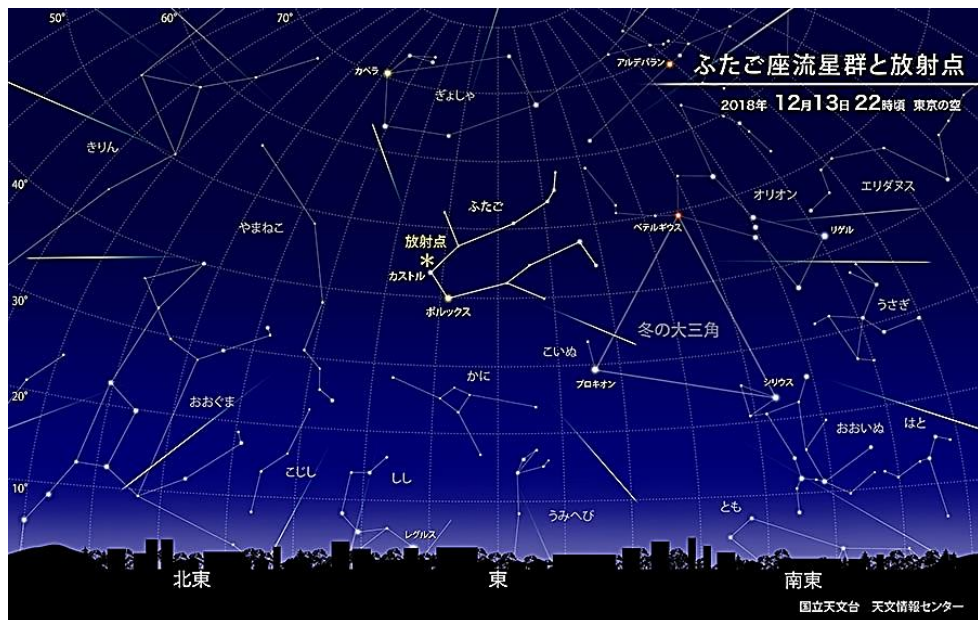


## しし座流星群



2001年の大出現<sup>しゅつげん</sup>のあとは、出現数も落ち着いてきていて、普通の流星群となっているしし座流星群ですが、この秋は11月18日午前8時ごろ<sup>きょくだい</sup>極大になると予想されています。午前1時前には、月が西へ沈むので、<sup>ふくしゃてん</sup>放射点が東の空へ高く昇るころには、月明かりの心配はありませんので、好条件で観測できます。出現数は多くないものの、明るいものや<sup>こん</sup>痕の残るものが含まれますので、流星が飛べば<sup>はくりよく</sup>迫力ある様子が楽しめます。

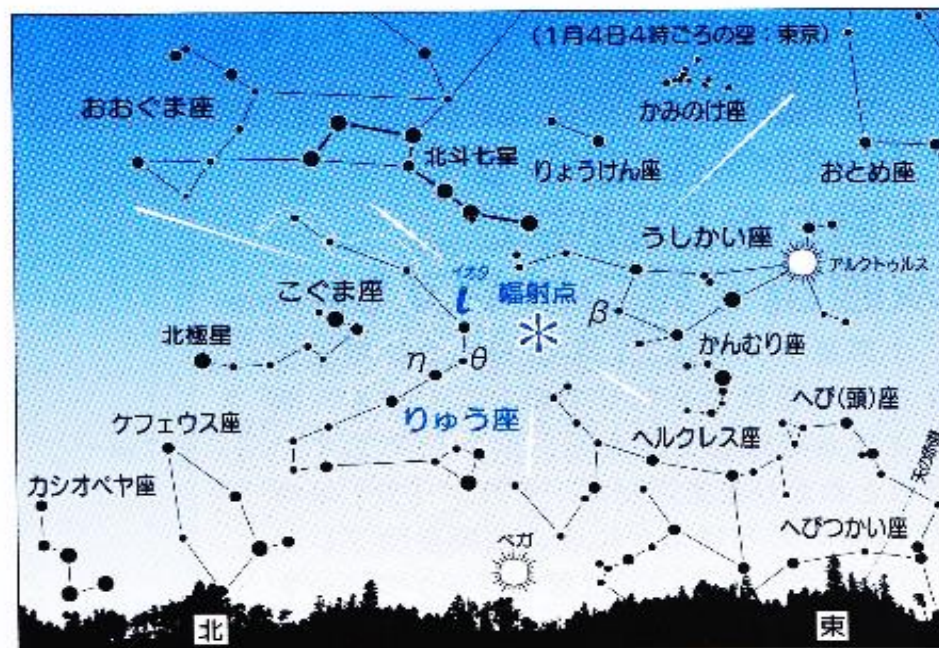
## ふたご座流星群



今年のふたご座流星群は12月14日21時頃に極大<sup>きよくだい</sup>を迎え<sup>むか</sup>ると予想されています。今年は12月15日が上弦のため夜半頃に月が沈み、その後はたいへんよい条件で流星を観察することができます。

特に多くの流星を見ることができるのは、13日の夜、14日の夜の2夜だと思われます。いずれの夜も、20時頃から流星が出現し始め、夜明け前まで出現が続くでしょう。

## しぶんぎ座流星群



正月明け早々の1月4日未明、しぶんぎ座流星群の出現がみられます。四分儀座は、今は使われていない古い星座ですが、りゅう座とうしかい座付近に放射点があります。今年のピークは、1月4日の5時ごろと予想されています。（この項、今年2018年の記事です）

参考：国立天文台天文情報センター  
天文ガイド  
藤井旭の天文年鑑